

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

自然系コース(理科)／足立  
奈津子

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

本年度は着任一年目である。大学の現状や課題、大学が掲げる目標を理解し、教育・研究活動に速やかに反映させていきたい。特に、以下を本年度の目標として活動していきたい。

①「地学の知識や技能などを確実に備えた教員養成」のための講義・実習内容の工夫。「地学」分野は、ほとんどの学生が高校で履修していないため、授業時の学生の反応なども注意深く観察し、中学・高校内容から丁寧に解説をおこなう。

②「実物標本」や「野外観察」を積極的に取り入れた講義・実習内容の工夫。学生の興味を喚起させるような「実物標本」や「映像資料」を効果的に活用した授業の充実。また、座学の知識だけでなく、実際に学生が自然現象に触れ、それらを観察・分析し、現象から何を読み取るのかを理解できるような、野外実習や実験を工夫していきたい。そのために、私自身が「地域の地質」や「自然環境の特性」について、理解を深めていくことが課題である。

③ 適正な成績評価方法の検討。各講義・実習の学習内容と到達目標を事前に学生には正確に伝える。その上で、授業時の課題や提出レポート、最終試験を含めて、各学生の理解が到達目標に達しているのか厳密に評価するように心がける。学生が、各授業内容を正確に理解しているのか、小テストや小レポートで確認をおこないつつ、理解出来ない箇所については、再度、解説をおこなうなどの学習支援にも気を配る。

#### 2. 点検・評価

・本年度は、赴任一年目である。高校地学はほとんどの学生が履修していないことは覚悟していたが、今年度の授業を通じて、基礎的な内容からかなり丁寧に授業内容を説明する必要があることが明らかになった。また、理科コース以外の学生は、基礎的な内容からの積み上げがない場合が多く、各授業で極基礎的な内容も説明する必要があることが明らかになった。本年度は、画像を多様した授業プリントやパワーポイントを毎回準備し、学生の興味を湧く話題も取り込みながら授業を進めた。学生の理解を促進するためには、もっと基礎から詳しく、時間をかけて一つのテーマの説明をおこなうこと、現象の関連性を説明することが必要である。

・講義や実習では、化石などの実物標本の活用や野外での観察などもおこない、学生にさらに地学に興味をもってもらう取り組みをおこなった。ただし、野外での観察に関しては、学生の興味の差が大きいため、次年度は授業内容について工夫をおこなう必要がある。

・授業では小テスト兼レポートを複数回おこない、毎回コメントを書いて返却した。次年度は、授業の始めにレポートの書き方を解説するとともに、毎回レポートのチェックをおこない、日本語の書き方から丁寧に指導する必要がある。

## II. 分野別

### II-1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- ① 講義以外での、自主学習を促す、「補助教材・資料」や「課題」について検討する。
- ② 学生からの質問や相談等には、随時、親身になって対応する。また、学生が相談しやすい雰囲気作りとして、自ら積極的に対話するように心がける。
- ③ 学生が研究室に配属された場合には、各学生の適性や志向を理解するために積極的に対話し、各々の学生に応じた個別の対応を心がける。

#### 2. 点検・評価

- ・学生からの質問や相談には、随時時間を割いて、親身に対応をおこなった。
- ・研究室に配属の学生には、野外調査、実験、ゼミ発表や学会発表などを通じて、適切に指導をおこなった。
- ・講義以外での自主学習を促す「補助教材・資料」に関しては、学生に十分提供できなかったため、継続して整備を進める必要がある。

### II-2. 研究

#### 1. 目標・計画

- ① 科研費採択課題「カンブリア紀礁生態系から探る温室期の海洋生態系と地球表層環境の変遷」の推進に力を尽くす。そのために、国内外の研究・教育機関とも連携して研究を進める。研究成果は、国際学術誌、国内・国外学会にて積極的に公表する。
- ② 活発な研究を継続的に推進するために、外部資金等にも応募する。
- ③ 研究活動から得た成果を、教育にも積極的に還元する。

#### 2. 点検・評価

- ・科研費採択課題と関連して、中国北京大学や大阪市立大学と共同して、国際野外調査を複数回おこなった。現在調査で得たデータの解析を活発に進めている。
- ・2本の論文が、国際学術誌から出版された。現在、1本の論文を国際学術誌に投稿中、さらに、1本の論文を執筆中である。
- ・古生物学会や地質学会の国内学会で合計6件の発表をおこない、そのうちの一件の発表は、「優秀ポスター賞」として表彰された。
- ・監修者として、研究課題と関連した内容を一般書籍で紹介した。社会に研究内容を還元する取り組みもおこなった。
- ・大学や高校（アドバイザー）の授業では、最新の研究成果を取り込んだ内容を紹介した。学生に地学や古生物の内容に興味をもってもらい取り組みをおこなった。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- ① 着任一年目の本年度は、本学の現状と課題の正確な理解に努める。
- ② 上記の理解を基に、運営面で積極的に協力をおこなう。

### 2. 点検・評価

- ・本学の現状と課題の理解のために、学内での会議や説明会にも参加し情報収集をすすめた。
- ・運営面でも積極的に協力をおこなった。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

### 1. 目標・計画

- ① 附属校において新任大学教員の研修をおこなう。附属学校の現状を理解し、教育研究の相互支援体制を強化するための望ましい連携のあり方について模索する。
- ② 社会への教育・研究成果の普及活動にも力を注ぐ。具体的には、1) ホームページ等を通じた教育・研究活動のPR, 2) 研究内容を研究発表会や講演会で積極的に発表する。
- ③ 海外の教育・研究機関と連携して、国際共同研究を推進する。

### 2. 点検・評価

- ・今年度は、附属中学や附属小学校での授業見学や研究発表会へ複数回参加し、附属学校の理科教員と積極的に交流をおこなった。
- ・研究成果を社会に還元する取り組みも活発におこなった。具体的には、1) 一般普及書の作成に監修者として協力した。2) アドバイザー支援活動では、高校での出前授業をおこなった。
- ・今年度は、中国北京大学との国際共同野外調査を複数回おこなった。共同研究では論文として成果を出すと共に、北京大学の大学院学生の研究指導にも協力した。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

上記でほとんどの内容を報告したため、特記事項はない。